

二〇二六年三月二一日(参加者16名)

狼煙めく苦屋の烟のどけしや	きりん
路地親しとうふとうふの声長閑	えいじ
早瀬なる飛沫に濡れて猫柳	むべ
大正の硝子に歪む苑のどか	康子
間遠よりとどく夕梵里長閑	博充
蝸壺のピラミッドなす浜のどか	よし女
江の島はここぞと鳶の輪の長閑	むべ
落合ひてより飛沫く瀬や猫柳	澄子
のどけしや沖のタンカー模糊として	わかば
長閑なる午後の窓辺にバラライカ	あきこ
点滴に和らぐ痛み窓長閑	董雨
ネクタイの締め方忘れ老い長閑	孤古老獐
のどけしや鯉の跳ねたる水の音	康子
路地長閑小半刻なる立話	澄子
名水を掬ぶ畔に猫柳	勉聖
潮遠く引きてま白き砂州のどか	よし女
のどけしや猫の横切る渡船場	むべ
波の音間遠となりて浜長閑	花茗荷

若鮎句会秀句・みのもる選・二〇二六年三月二九日